

パートナーイベント 第19回文化庁メディア芸術祭 受賞作品展

名称：第19回文化庁メディア芸術祭 受賞作品展
会期：平成28年2月3日(水)～2月14日(日)
会場：国立新美術館／TOHOシネマズ 六本木ヒルズ／スーパー・デラックス／セルバンテス文化センター東京
主催：文化庁メディア芸術祭実行委員会
共催：
後援：
対象：一般
来場者数：38,791人

■内容

2016年2月3日(水)から2月14日(日)までの12日間、東京・六本木の国立新美術館を中心に「平成27年度[第19回]文化庁メディア芸術祭受賞作品展」が開催されました。本展では、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門で世界87の国と地域から過去最多となる4,417の応募作品より選ばれた全受賞作品と功労賞受賞者の功績等が紹介されました。

1. 展示・マンガライブラリー

国立新美術館の展示室では、4部門の受賞作品と功労賞の功績を一堂に展示。インスタレーションやグラフィック、映像作品にくわえ、ゲーム、ガジェット等の体験型作品も展示しました。また、エンターテインメント部門大賞『正しい数の数え方』を毎日上演するとともに、アニメーションやマンガ作品を貴重な関連資料とともに紹介しました。また、マンガライブラリーではマンガ部門の受賞作品、審査委員会推薦作品(オンライン作品含む)を自由に読むことができる機会となりました。

2. 上映

アニメーション部門の受賞作品を中心に、注目の映像作品などを集めたメディア芸術祭の特別プログラムを上映。さらに、受賞作家や監督が出演するトークイベントもあわせて開催しました。

3. ラウンジトーク&ライブパフォーマンス

受賞作家のプレゼンテーションと作品の実演、パフォーマンス作品の公演を行う恒例のイベントシリーズ「ラウンジトーク&ライブパフォーマンス」を今回も実施しました。国内の受賞者のみならず、海外の受賞者のパフォーマンスも鑑賞できる貴重な機会となりました。

4. シンポジウム

国立新美術館3階講堂および研修室A・Bでは、会期中19回にわたって、シンポジウムや受賞者トーク、上映トークを開催しました。功労賞受賞者のシンポジウムや、作家によるトークなど、その場でしか聞けない貴重な話題が展開されました。

5. ワークショップ

プログラミングの仕組みに触れられるワークショップを開催しました。メディア芸術の中には、デジタル技術、コンピュータプログラミングを使った作品が多くあり、その仕組みを理解し自分で作って楽しむ機会を提供しました。

6. 鑑賞プログラム

外国語が話せる、手話ができる、子ども好き、ITに詳しい等、様々な特長をもつコミュニケーターと一緒に、おしゃべりを楽しみながら展示作品のいくつかを鑑賞する「おしゃべり作品鑑賞～コミュニケーターと巡るメディア芸術祭～」を実施しました。また展示作品について解説を聞きながら体験できるガイドツアーを実施しました。

7. パフォーマンス公演

2月4日(木)には、セルバンテス文化センター東京において、アート部門優秀賞『Ultraorbism』を日本で初めて上演しました。

8. インターネット配信番組「DOMMUNE」での特別配信

メディア芸術祭の開催にあわせ、インターネット配信番組「DOMMUNE」を特別配信しました。今回は、文化庁長官と若手女性作家らによるトークを開催。『わたしたちがいま長官と話してみたいこと』をテーマに日本の文化、メディア芸術の未来について語り合いました。